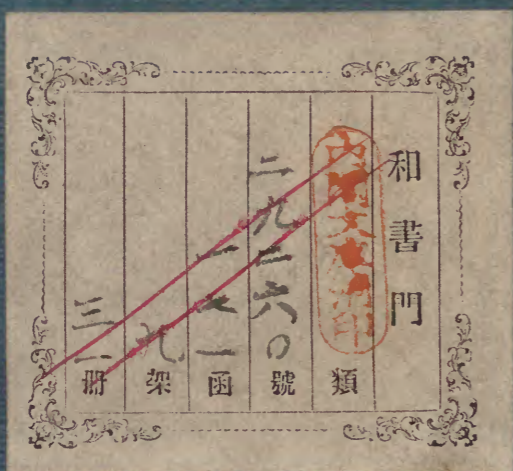


尾張志

自四十一
至四十二

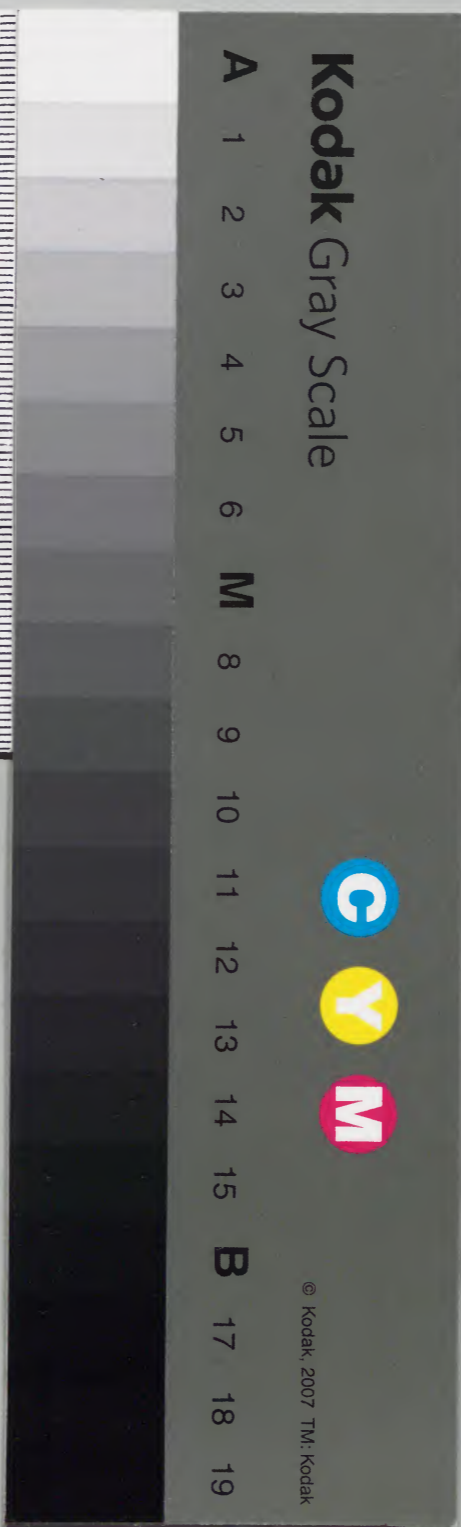


内閣文庫		和書
二九二六〇	三二一	函架
二七三	二	函架

(二十三)

内閣文庫	
番號	和 29260
冊數	31 (22)
函號	173 13

地四三



江蘇省...

深田增...

植松...

中...

同...

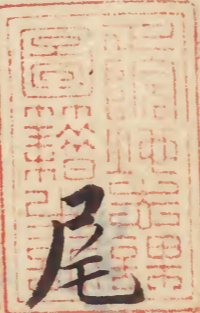
...

...

...

...

...



尾張志卷之四十一

内一〇八五〇號



甚木栗郡

四至のさうひ

地位東西ハ長く二里まじり南北ハ短く一里半まじり
より東の方をハ尖り西の方をハ南小方面より
て猪ヶ谷の形にハなしてハありてハ丹羽郡を堺

東申より西へ中流に隣りて

木曾川と限りし

旧の疆域ハ東西四里計り南ハ二里計り
北ハ中流と限り西ハ美濃の安八郡と隣りしハ八日玉厚見郡
と限りしハ民部省國帳ハ葉栗郡行程北西廿四里南ハ廿二里
七十歩ありハ古制の里數也

古今のうつりあはり

和名類聚抄延喜式とてその古書よりみれば

葉栗郡とて相栗とてけりまはるるは

粟とハ熟字のたしめぬやと思へし其例も

あはるる三河國額田郡と相栗村ありしハ

墨雲俣川とて厚見郡の坂川とて西川の坂と

あはるる天正十一年秀吉公のときいそ

起川と國境とありしをえ川西の村とて美濃

屋らとてしるる美濃の地ハ今相栗郡とけり

織田信雄公の尾張と領ありしハ其地とせむ

めんむふかく國境と改めらるる人あれど

さるるハあはるる墨雲俣川と東西とて

切所セツとて糸方墨雲俣と稱しは必ず

よふせぎはむして敗軍とて又國境方

墨雲俣川とて退けは起矢刺と稱しは必ず

軍とてるるが多しは信雄公とて力

東照宮の活兵と權をめぐるといふに
新撰美濃志の里雲侯川の
多きに合せらるる

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

大庄名

上門真莊

門間村と本前とをいふなり數十村日莊也
下門真海東郡より天王川の水とふの
ありたりと上門真と下門真と
むしし新基菩薩志とけりしは
祭記よりし

平泉莊

平泉村西海邊村石場村寺とまうたり
村久野莊

村久世村と申す一々ハヒボ花保村ウニロ花保村
号と一シ花保村曼陀羅寺花の
曆元来年十月十日沙汰淨河より尾張れ
目代に与一古時之國宣高木村久世村太掌
會米事云云之選擇集私記行觀上の凡
例之永亨土己未曆正月十日於尾張國村久
野庄花保曼茶羅寺令書寫畢と云ふり
古き庄名物也

土郷名
大家郷

今活村と云ふ一々若栗郷と云ふ一

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

村里の部

坂千原村

郡のくらしなれきりる里と名古卷の西北
の方五里より張州志略より中治郡
今字元とありしと今も由郡と成りて上
門真元とありしと神鳳抄より尾張國
佐千原御厨とのせりありとあり

西浅井村

坂千原のふ名古卷の西も六里より上
門真元より山の下千原村なる上門真元

しらふ(有き)てこれとのせりしと一村あり
一或東西二邑より一は御前探の所あり
後の事りりりり徇行記より

東浅井村

西浅井の東名古卷の西も六里より由村長
極善寺の天正三年の記録より中治郡一宮郷
浅井村とありしと此より一被領とあり

しらふ(有き)て

富塚村

坂千原のふ名古卷より六里西もあり中治郡

妙興寺所託の西安二年己酉八月の公設納
法下地等目安注文の一町三町人見塚三貫
文云くくきりくきりくきり又海東郡の
富塚より

嶋村

富塚の北北方名古をの古里餘西より
大家郷より枝村と和栗より地あり是
和名類聚抄に兼栗郡若栗より四地
あり枝々と山清より

大日比野村

小清の東にありて名古をの古里餘山の方より
常能保村曼陀羅寺所託の天文九年十月
廿七日の賣券状に坪八廿七の之表角
四ツつ一に一のころ賣至日比野六郎等
廣武より

小日比野村

大日比野の東南名古をの古里餘西より
とく日比野一村より大小二色より
れく天文のなのみり

松竹村

前野村

小見比野の東北名古屋より六里山西より
妙真寺所藏の觀應元年庚寅十月八日源
祐俊が沽却状に尾張國葉栗郡松竹郷内
本瀬田^{号瀬田}薩摩司跡田地事云云と云ふ
古き郷名也枝村一所ありて龍正寺村より
小見比野の北名古屋の山西六里よりあり妙真寺
所藏の元應二年四月二日沙汰兼念讓後
たのふく又丹羽郡の前野村好と云ふ

草井村

この郡のうら東山の隅るる里とて名古屋の
北の方六里よりあり

鹿子嶋村

草井の西より並い名古屋の北七里よりあり
龍正寺曼陀羅寺所藏の永正五年拾月吉
辰とある古状に畠二段四百五十文カノコ島
跡二部と云ふあり

小八村

鹿子嶋の西より名古屋より六里山西よりあり

村八幡社の寛永十二年甲戌小春うきし棟札
小系栗郡小入村より

小関村

前記の西より名古巻の六里半山西より和名
類聚抄に中務郡小塞手世本と云く定喜神名
式に中務郡小塞神社と云く本國帳に従
二位小塞天神一本は正三位尾塞といとあるらるる所の
郡の譜亂せしと續日本紀の世七卷にのせり
小塞宿禰弓張ははるの人物と云く
人物のよりより

黒岩村

小関の小名古巻の山西六里半より村の西
は。本名川の隈れありと云く黒岩のり申
かく名づけし

篠野村

名古巻の西の方名古巻の六里西より赤花
保村曼陀羅寺の天文十六年三月廿八日の古出
し樂野よりけしと云く樂浪城より
し例として云くしと云く
寺の永和四年九月十日の字遣出の今乃

志々々 彦野 〓 〓

杉山村

島村の西山の方名古卷の六里西山より

大野村

彦野の少々より名古卷より六里半西山より

文喜神名式ノ葉栗郡大野神社と志々

本國帳より從三位大野天神とのせたり隣村

河田の東徳寺の河林陀の法像の表書より

明應五年 丙辰八月七日尾州葉栗郡大野

里よりんをりて

極樂寺村

大野の西名古卷の六里半西山より民部省

國帳ノ葉栗郡極樂寺寺領四十八束有餘

以浦領為貢代法然上人三夏与出之繩室

也と云たり与出ハ不出の誤字と程可考

河田村

大野の東よりりて名古卷の六里西山なり康

正二年造内裡段錢并國役引付より一貫八百

五十八文川田雜樂助入道殿尾州西所散在

段錢よりハナリの人らるる

光明寺村

極樂寺の南名古屋の六里半西少あり塵流
塙囊抄尾州葉栗郡光明寺と云寺は
もぐりの尼寺と名づく是は飛鳥津御原御
宇丁七小乙中葉栗臣人磨始建立と云
更屋敷村

極小古村の西南の方名古屋の六里半西少に
ありさるる屋敷ありい新屋敷と云り
飛保村曼陀羅寺の天文十六年正月の古状
六百文サラ屋敷弥七郎左衛門三郎と云り

田所村

更屋敷北南名古屋の六里半西少あり

曾根村

更屋敷の西南名古屋より六里西少あり

北方村

更屋敷の西方名古屋の七里西少あり康正
二年造内裏段銭并國役引付一貫八百廿
五文伊賀美作守殿尾張國堀津北方段銭
と云ふより堀津川向いより今ハ大濃リ
屬

中島村

少方の西名古屋の西に六里半あり新保村
曼陀羅寺天文十六年十二月廿八日此古屋
南に中島殿伊富成地ありは地の
人ら多し

里小牧村

中島の西の方名古屋より六里西にあり

玉井村

里小牧の南名古屋に六里西にあり古歌に
よみし玉の井里よりよき名所なり

お欽名所の跡より古妻鏡の元暦二年
六月十六日の記に玉井四郎助重といふ人の
人より枝村と佐屋^{ツルヤ}と云

内割田村

玉井の東に方名古屋より六里西にあり割
田といふ班田といふところにて田畠とありちて
人の領に賜ひたり名ら多し

外割田村

玉井の南名古屋より六里半西にあり

黒田村

内割田の東名古を乃古里西山より或喜神
名式ノ葉栗郡黒田神社と云々一木國帳
に従三位黒田天神と云々吾妻鏡小黒田
ノノ史本ノ妙抄松多集ノ等々一黒田里尾張
ノノ正徹の歴草ノ竟孝の覽ノ等々一黒田
ノノ塵添塩表抄ノ黒田の宿ノ等々一
板松浦南ノ方紀傳明德記常樂記ノ等々一黒田
ノノ分載とのせり

大毛村

黒田の東南ノ名古を乃古里西山より或喜神

聚抄ノ葉栗郡大毛と云々一史本神名式
ノ大毛神社尾張國神名帳ノ従三位大毛
天神とのせ其一本ノ大竹司と云々一民部省
圖帳ノ葉栗郡大毛公毅九百六十七東有餘
假栗法性寺園殿之舊領也故以假栗充無
栗之貢大毛川貢鮎鮎鮎鮎等官家今國司
之史部為乾魚と云々一

高田村

大毛の東南ノ方名古を乃古里解西山ノ
ノノ史本ノ妙抄今寄云々一

門間村

この田のあな名古屋の西山六里あり回とあり
と真とありと枝村二ありと福徳村八幅
村ありと由布以覺河弥陀の画像の享祿
四年辛卯土月廿八日の表書と尾州葉栗那
上門真莊八幡村福藏坊と志せり

三法寺村

卯剗田のあり方名古屋を六里西山ありと
ハ美法之三法寺村と曰ゆるり一が本
若川堤と築直一とけりともそり村あり

江木林村

このの越村より上門真庄よりなり

島村乃東北方名古屋の六里西山ありと
平泉をよりよみ三ヶ村目と名也

西街道村

街のい

江木の東名古屋を六里西山あり

河端村

西街道の東名古屋より六里西山あり

村久野村

小松麻子河のあり方名古屋を六里西山あり

ありて村久姓名の由ありり和名類聚抄
葉粟那村國々つてあり

前飛保村

村久姓の西南より名を北七里山西也以下
二三ヶ村と村久姓をよむ一ヶ村を飛保
うしりあふ一村を只ひんとし一ヶ選擇
集私記に永享土巳未曆二月十日於尾張國
村久姓を飛保曼茶羅寺令書寫之畢と
つてあり天正記よりちを義中納言とあり
海の大故新の二ふの秋ありのまうげんよ

りてとふとをよせし尾州ひが村雲とよ

所よきとせし秋と送り流ふ云とけり

村雲ハ村くのと同たぐてありりりりり

炬炬雲ハ熱田の圓福寺熱田の曼陀羅寺に在り

竹靴家集世にありきとある大とこ宣河法師とあり和ふとあり

小元禄三年九月宣河の寺に在りをの寺に任

まじのける以宣河法師のありり せ成をり

やの衣と流て耳てむの山水とむらり

返一すじやと甲やも秘り山水の流き

後飛保村

あつらのおごりやすきを とらんとあり

村久世の西名古屋の西七里餘より
宮田村

後飛保の北の方名古屋より七里半西より
ありちりいふくると上門真底より

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

和歌の名しとつ

黒田里

夫木如方抄の里 尾張 海道宿次百首

冬 浅湯 相郷

をよみ今もいふとんえは鳥羽むれ

くはよのさしれゆよやみのそら

くはたよりよあといふみどり子のあそり

もくみり人の今もゆよの祝のいふまで

ありとまうみちいふはげぬきくも人し

そいぬいそあらいふはねはくすまら

ちびつゝはふとたやえくく人ぢぢあを
 ねりて成老とくくくくくくくくくく
 しりのゆにたつさ出まぬ。又他てみや
 ぶのゆゆらきつづゆくくくくくく
 ちぢりりゆくくくくくくくくくく
 さゆまきくくくくくくくくくく
 いさく村林めぐる民の歌あくくくく
 世忽のうま海くくくくくくくくく
 蓬津よ門とくくくくくくくくく
 曉くくくくくくくくくくくくくく

正徹
 知むのふのふく候くくく
 水すすくくくくくくくくく
 く後田のふくくくくくくくく
 くらみどののくくくくくくく
 夕たをしけて 袖ゆくくくく
 木のふくくくくくくくくく

んえぐら田川いあま下もあはまよ
ふぐーとんくふりま

堯孝法印

皆見一富士元

おのぐえ乃馬田とちうくぬまのり

こくろくうーぬまのりぬまのり

とよめり

玉井里

今の玉井里村あり享保二年の秋むぎの
社の林のうらとらうぐらりもむらぬまのり
出さしちき井幹の本殿行とぬまのり其

うらう天平二年癸未三月廿日の十字城うき
う一ひらりり年月をうふらりぬまのり
痕^{アサヤカ}鮮明らうむしれ玉乃井れぬまのり
うとハわすりりもあはまのりぬまのり
葛城よ玉の井の里ハ徳田此本宮のうらぬまのり
清水ありぬまのりぬまのりぬまのりぬまのり
とぬまのりぬまのりぬまのりぬまのり
等よのりぬまのりぬまのりぬまのりぬまのり
夕まのりぬまのりぬまのりぬまのりぬまのり
玉の井の里ぬまのりぬまのりぬまのりぬまのり

詩文

曼陀羅維寺緣起

源敬公御作

元德元年天真乘運上人開基之地淨土
西山泚田舍之本寺也空光上人在院之時
寬正三年壬午六月二十三日上人有靈夢
之告翌日輝東天時曼陀羅像出現焉
此寺初號圓福寺今依靈瑞改號日輪山
曼陀羅維寺開山以來代々着紫衣然明
應元年寺院炎上

綸旨燒失着衣之事暫斷絕天文十年

三月廿五日 勅願寺并代々香衣之綸旨

顯忠上人拜受之為 勅願寺故淨土三

國傳來祖師等許一派之譜脉

寶光寺詩二首

蓬萊州寶光禪寺花時之會而余不得

預其席後一日遇之主人求予詩欲雜諸

彥之篇援筆應一厥命益雪則寶光之

鎮守白山之廟号也

益雪廟前來扣扉 數篇細讀故人詩

鶯聲未老有花處 聊折野梅添一枝

曉鶯

尾之黒田宝光禪寺會与
青春輝面故及雨箇語

益角長安吹破時 敬鳥飛共出借無枝

相逢雨箇低聲語 細雨打窓殘漏移

梅華先盡藏 春風吹入

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

官舎

北方後所

北方村より川に並奉り及い中後のまじり

この本所川の流れより五河の恥と改じ

し成官とも急そ少田郡中治美環境の内敷

下村の租税公平おと昔のし成友方中後

ともあすそとの宛文二年川並及び

中成号改戻す享保土年川並及び

官田ありより急事せし成天府元也年

五月川並より川並北方し成友と急事

宮田汲所

宮田村より千五百歩あり本所の支所
が今八度して松より一人こゝに居候

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters '山川' and '木曾川'.

山川の記

木曾川

尾張弟儀のありしと後天下に名を
大川より古名と尾張川といふ
よりのされよけ川のそらよ
尾張川といふより古名とよ

宮田村

宮田村より本所に堤と松と水
南西の方数村の用水といふ
より井道敷所より水は海へ入

西の松 尾岩村の 寛永五辰年 東の松 宮田村
の地内より 寛永十九年 年に比く 原水
り 書 水 あり と 今
を 度 と り

浅井川

浅井村あり松竹村の也此 栗水 浅井
て 多 大 川 入 程 多 川
難 人 と り と り

鹿子湯猿尾

鹿子湯の川 本 鹿子湯の川 石 鹿子湯の川

岩 と 入 と 数 と 子 と 流 水 と 流
川 と 長 十 間 と 流 と 流 と 流
と つ い え 数 万 と り と り と り と り

猿尾

宮田石 妙龍

宮田村あり其長サ 八百五十間 鹿子湯
つ き と り 大 猿 尾 と り と り と り と り
鹿 あり と り と り と り と り と り

若栗橋

島村あり若栗の郷名のい橋あり

とて

河田渡

河田村カウタあり美濃の新加納の方にある長

五年八月廿二日國東の軍兵よりと海を渡阜

の御成改セメウチ手掃利ありとて

北方渡

少方村あり美濃の園城寺村より渡阜

ゆく

里小牧渡

里小牧村あり美濃の里松村と海を渡阜

河田よりとて

土産の部

茶

前年保後保名山法村より高野寺
へて茶名出たて下よ保保茶と名をたし
馬

光明寺村のありけ法村へ向て名茶を及
て茶と上野約とよ下野の保保法村
よ俗衆多し

絲綿結

う由那法村よ製遠より本年丹羽郡中法村

田一を内割田結と名をたし法村本
綿寛大古平法より由那より織をた

鱒

本谷川よ産出たてて名保るり川よりつぎ
村の農氏捕て口方より

溪鱧

田一川よりあり初夏のひより秋初ハなまを
獲一網をたし八月の末九月の初より
魚こころぐり川よりと伊本山下の子
とよの草井麻子法又田河より川の川上

川下の瀬每に浪切網或ハミチアと浪や多く
とれそゆみさのりもゆらねびたしー糸を
の穂れき生とゆらるぐとく奇代の仕観
おき

鱸魚

田川に産る縁河の材これものきと捕事

鮎イカダ鮎ハニ

竹代鮎

和名鮎長抄に鮎波江魚似鮎而白色とあり
田川に生してゆき細き白くを之を糸

まのしどののきをガキまに鮎糸の不成六杭
瀬の深きとたつかりカサとこまらるあや
まをともゆき山方村のものけ糸と煮くあ
けのまるととみ味していの本れ也又ハハ
酒く山方より江の産名乃け由給のゆ
まをきく送る日と経くあらういまをせびく
まの糸糸して美味なり流人新名也と称
して煮鮎と

野菊

玉井村の田圃より文政五年年十二月

廿四日玉井村ハ野菊の名菊の
御守ありては下野の御守は
一より田野ノ多クハ上野別
野菊まはりのあかあしとて曰ハ月夜しづか山方
少代友と云
若大酒云君ハ教りてより名菊

人物の部

葉栗臣人麿

塵添壺裏抄ノ尾州系葉栗臣人麿
寺ありては下野の尼寺と云ふ
原御宇トモ小乙中葉栗臣人麻呂始建
小野同祖彦國昔命之後也ト云ふ
の人をたゞこの地ノ領ト云ふ
陸尾ノ葉栗臣人飛保村ノ二十町中ノ西
河田村ト云ふ大川の堰と云ふ里の古墳

たしとて大キ好く石籠と城也長九尺許
換六尺許

内には飯の折る淋の古き洞のくまりたる

汐く似ゆるりり強窓の破とるまじかり

云云葉葉の人鷹の塚らるるくませり

廬入姫命

廣漆壺裏抄小引る尾張國風云記り葉葉

那若栗郷宇支須那社りり廬入姫誕生産

屋の地りり故此号あり廬入姫命ハ

景行天皇の法字の人也云々云々云々日本

書紀より大足彦忍代別天皇喚六坂入姫為

妃生七男六女云云弟八曰五百城入姫皇女云云

と云々云々云々

景行天皇此法字のりり御母八坂入姫ハ

尾張大海媛の法字をれ其ゆりり云々

りり云々云々云々云々云々云々

法の部りり云々云々云々云々

玉井四郎助重

玉井村のくまり吾妻鏡小元暦二年六月

十六日丁卯曲膳大夫近藤七等為関東御

使帶院宣巡檢畿内近國成敗士民訶詔

云云尾張國有玉井四郎助重云者本自為先
猛惡令懷諸人愁之由謳歌近日殊又有違勅
之科云云今日被仰助重云違背給命之上者
不可住日域依令息緒關東不可云云鎌倉
早可逐電云云と云々

開田二郎國用クニニ
ニチ

割田村乃人云々此他今々のところ田圃と
ろりろりろり里氏といはれり田圃割田圃
云々此のろり割田村名ろり田圃と
分脈系譜と木田又云部重知の子と云田圃

木田二郎國用と名のろりろり

開田判官代重國

源平盛衰記云々平家物語の法皇源氏
北云々又法皇後云々開田判官代重國
云々云々此の國用と一族と云割田村乃
あつりて後と武と云々

和田河内守

人物志云々和田村の人織田信忠云々は
云々云々府志云々織田信忠の臣和田新介和
田の城と云り信忠と和後の紹久と云り

と日一人るく〜とをせり

糸松修理亮正吉

治村の人なり魚松を治り備前守正盛羽栗郡島

村領其子藤兵衛正利其子四郎左衛門正徳其

子甚兵衛秀清仕織田太即左衛門其子修理亮正吉

免の名又四郎信長公信雄公及び秀吉公

は二好

忠吉君はは〜と多せり織田公は

楠校間の合戦刀祢山の軍に切名と著一豊

氏を以てハ黄幌キハロ衆に列

御方の御事とてハ関ヶ原の御軍に武勇と称

せしものり

治致公は是はせしハ私人の如くあり

澤井左衛門尉雄重

正田村の人也其治致其兄ハ上方元祖又孝

孝播磨の侍あり其子織田公に厚たり

去りせり雄重内大臣信雄公は天正の中

正田の城とせり秀吉公軍と小牧山にむけ

らと〜正田を避けておこし〜

雄重公の堅固なり〜信雄公は近

の好津源村に寓居しつゝ

性高院君に奉仕し、慶長十二年申四月四日
病死。後光院傑秀道英、禪定門と号し、子孫
名長をの長治るるに、好の古殿の事なり
と傳す。合せらるる。

東郷侍従秀一

少方村の人なり。幼名、竹長。曾門友成。秀一
とて、信長公の小姓のら。秀長公は、是、越前守
東郷と号し、信長公に侍したるに、玉滴
隠見し、長谷門友成。秀一、事、太閤

秀吉公は、是、好ら

大御所は、是、子細ありて、能く職せしめ

りしと云ふ。大御所の長谷門友成。直言の

事あり。秀吉公より、能く侍し、好ら

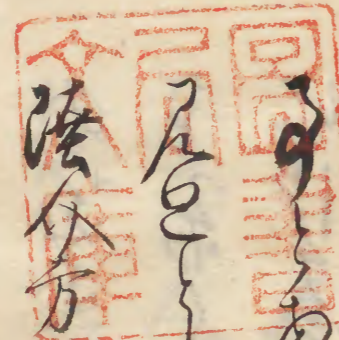
りしと云ふ。丹羽幸次と云ふは、是、好ら

りしと云ふ。丹羽幸次と云ふは、是、好ら

りしと云ふ。丹羽幸次と云ふは、是、好ら

りしと云ふ。丹羽幸次と云ふは、是、好ら

りしと云ふ。丹羽幸次と云ふは、是、好ら



海難せしりありし二天秀忠公ハ此れを
中申せしむる也今其後海にうつる者ハ亦
皆秀忠公の位也去来三月打走すり終
ふその衆乃ち少すつるも其れ終て天下
の冠ふりすも終るはいつか海秀忠公の位に
も亦くありて百の場と多死して其の如
にしるも法とて中洲と曰てり多し水に若
方の際中しりしとてあまう六本村むと曰
る海にありて六本の如くも亦ありし終
の故ともりりす

洋ノ云ク長谷川ハ堂名竹とて信長公
小姓とありて其れ法長なるも亦り

又天正記の長樂
寺とてありし人なり
少年の位はわすれの命も
六とてえしりありしもの
つれは長とてりて此の
名の人となりしもの
徒とてりて又元禄元年
子なり

川田雅樂助

河田村の人也康正二年造内裡段錢并國紋引
付小一貫八百五十八文川田雅樂助入道殿虎

州西所敷在段錢と云ふなり

山内但馬守盛豊

尾田村の人や尾陽雜記に黒田城を山内但馬

守盛豊織田家の父山内日向守藤宗盛道

丹波位人父子未
尾州一連歌の作者と云ふ人物志に織田伊勢守信女

以盛豊為黒田城代と云ふなり梅美先臣と云ふ

山内豊守敏直壽徳賢昨為洞下之僧云
今称豊市守云
畧之

と云ふは山内氏の作に始祖と云ふに藩翰

譜に盛豊は徳とのせり丹羽氏の古作に豊

のありと云ふなりと云ふは詳しむべし

尾関石見守

小園村の人也里老のいひ傳へる尾関大和守吉

考といひける人の末孫と云ふ尾関新守といふ名

ありと云ふと云ふ事ありと云ふ父子あり福徳正則

はりれ父と云ふは吉子と云ふ見考と云ふ名あり武吉

う中尾関宗系の子と云ふありと云ふ人あり其子と云ふありと云ふ
父と云ふありと云ふありと云ふ父と云ふは吉子と云ふ名ありと云ふ正則

女盛の産所と云ふは尾関正則の孫

と云ふは父ハ二万石子ハ二万五千石と云ふ

と云ふなり又此色の村人の農人小園又田字

のありありと云ふ系図と云ふと云ふなりと云ふなり

一族ありし一りの岩園夜話く福清は海
大丈正別女慶備後兩國と海路して入京の
沙紀とよし何れ付家元三人山園見
沙紀一書く沙紀ゆは吉野の城を福清丹波
大なるちんぢや二書くゆは之好種止の城を
屋園石見是ハ缺唇うり二書くゆは東條此
城を長尾早人斤員とていふて出
家康公の御後と並居らるる児小姓丸の
中へ城をてあいのあはくくあり右沙紀
お供らむ

家康公小姓丸の方へ向きと大下沙紀を
捉はれ只今福清のあはれとてあはれ
と河津とや定めて二人をく斤福丸を
おしとくしいてあいのあはくくあり右沙紀
人お供らむあはれとてあはれとてあはれ
るふんは福清とてあはれとてあはれ
皆武備場勢あり大劉乃武士育るといふ
名をて戰場とてあはれとてあはれとて
されしを福清が信長とてあはれとてあはれ
家康が首のあはれとてあはれとてあはれ

の御目らまは世^ヒ降^{ガレ}どよの心よ浦山交らや
うり花と出ふふあふぶとくしきふりあふも
よけよとらぬあふりう事新うてと今のこ
あいの心ゆくとくし其るる神よそ八成人成
遂^ハすそも世間く名と知^ルくたのまふとら
成^ルごとくどくもやそとくしよとつぬ行帰
ちかたるん今とをまのよバ或るふとせ
よぬぬ心ゆと多別よとくしよとつぬ二言
相^ハり沙後極ありくた^リき^ハも也とく
とく

小塞宿祢弓張^{ヲセキノユミハリ}

續日本紀小延暦元年十二月庚戌内掃部正
外從五位下小塞宿祢弓張言弓張等二世
祖近之里^ニ庚午歳以降因居地名從小塞姓
望請依庚午年^ニ籍改換小塞家賜^ニ尾張姓
許^ス之とくし^テり此^ノ時舊姓尾張氏^ノ禮^ヲし
し^テ相^ハ地^ヲ名^ニよ^シつ^テ小園村^ヲ
と^シ人^ヲと^シす

意足居士

光^ノ角^ノ村^ノ光^ノ明^ノ志^ノ此^ノ江^ノ原^ノ軍^ノ子^ノと^シ好^ムキ

無事と略記

東照宮法長公の對部一孫の一時意は
公に例ふは公の法長公の法に依りて
好む八幡宮の傳をわたり神皇正統記
下巻の源氏とあるは六條の御孫の
の裔孫なるは公の法長公の法に依りて
東照宮神の傳に依りて意はと法長公の
傳に依りてとくく公の傳とくけすの
いふく八幡殿の傳を公の孫の法に依りて
公の法に依りて神皇正統記の御孫の
公の法に依りて神皇正統記の御孫の

山家原より一孫の一時意はと河石川日向

中河より意はとくく公の傳とくけすの

形を記す

凡海部忍人

仙覺法師の家系集抄より引く尾張風土記

葉栗郡河島社在河沼郷河島村奈良宮

御宇

聖武天皇時凡海部忍人申す此神化為百鹿

時出現有詔齋為天社と云ふ凡海連

火明命の孫と云ふ尾張氏と河沼と云ふ

人るより一六廿七つれど今も此院定るるに
美事本邦とありてよりて志をいへくさり
たゆむ

小胡麻郡司維季

平の御物御源平盛衰記にありて師高尾
浪國の流すことと曰ふの役人小胡麻郡司維
季の御子河をせらるる一記せり小胡麻の
人るより一六廿七つれど今も此院定るるに
美事本邦とありてよりて志をいへくさり
たゆむ

小徳権守伊遠

古今著聞集に徳後の女の役人として力量
く事記に云はるる人の目を見し一とあり
と記し一子伊遠とありて此院の
多胡院の相撲の名ありて一とあり
せり一とあり小徳村の人とありて今も此院
ありて一とあり一とあり一とあり一とあり
小徳氏を中流の部とせし一とあり

小田切傳之丞忠近謹圖
杉本愛七良承謹書

尾張志卷之四十二

深田增藏正韶謹撰
植松庄左衛門茂岳謹校
中尾八郎右衛門義稻謹輯
岡田六兵衛啓謹輯

葉栗郡

神社の部

穴太部神社

延喜神名式の葉栗郡の始末記一 本國帳

下は從之從穴太郎天神と云ふれと云ふ處に
と云ふて今其其四也と云ふ人なり一高野の月事二村
天正三年八月に於て是の月事ありん
以能考定正也

阿遲加神社

延喜神名式と兼栗郡阿遲加神社本國帳
に從之從阿遲加天神一本正四
位下是近と云ふれと云ふ今
之由の月事ありん兼栗郡足近庄直

道村八幡社と云ふなり田前森五郎記

若栗之神社四十二

河村と云ふて八幡宮と稱す河村の一の
若栗の郷也延喜神名式と兼栗郡若栗
神社本國帳に從之從若栗天神と云ふれり
羽栗氏の祖天押日命と云ふなり一社あり
遍照院つらさし。

黒田神社

黒田村とあり延喜神名式と兼栗郡黒田
神社本國帳に從之從黒田天神と云ふれり
官社なり今生土ウブスナ社と云ふ例系九月九日

大野神社



大野村あり延喜神名式葉栗郡大野神社
本國帳ニ從三位大野天神ト記セリ南田園の中
一小社あり榎の大樹ありと記スル是も西徳の
一武平南村其地寺の境内といふは記書の
社也

石作神社

延喜神名式葉栗郡石作神社ト云々本國
帳ニ從三位石作天神ト記スル是も今を
美濃ノ属ト云々尾張大野村是也

宇夫須那神社

治村ノ河ノ今控現ト稱ス延喜神名式ト
多葉栗郡宇夫須那神社本國帳ニ從三位宇夫
須那天神ト云々尾張添塩裏抄ニ尾張國風
土記ト云葉栗郡若栗郷宇夫須那社あり廬入
姫誕生^{ウツ}産^ヤ屋の地也ト云々尾張國風
ト云々祭神

景行天皇の皇女五百城入姫命^{ウツ}と云々二十
二社註式ノ諸國散在內宮御令躰十社同相殿
二社尾張葉栗郡宇夫須那社式內手力雄命
ト云々祭神手力雄命

風土記のよすねのまよもけを以て註式古
書るれどもうけざりたる河土のあやゆりまよ

川島神社

延喜神名式、葉栗郡川島神社本國帳より
從二位川島天神と云ふも下分處れり
くろく、本宮川の中流の河田河小網河松原河
笠田河牛子村等と云て河原と稱す内
笠田河村の白鬚の社は河田河の惣氏社とて
本村が古く古樹ありて四社のおまげソラドは
これらとまよしく河原神社なるを(河)と云

龍平坪内氏の記して河原とありしが
さくしるものごとく今河原と定めて尾張

風土記のよすねのまよもけ

伊富利部神社

延喜神名式、かくのてしる本國帳より從

三位伊富利天神一本三伊富利部と云て今も地定るる

よそも盧入部とて島村の八幡とて其四社
るふん定るるに今按るる小松村コノマツのいと
ゆりの地とて其四地とてゆらん其村
惣社が境内二五條の地とて長平とて百

年と云はれずんといふ事。大樹の松あり且又
之由松并八幡社宮永之年の松れと葉栗郡
小入村といふれは松よりたる村名よりいふ
かゝる事ありまあるに似たりと考へざる
ことあり

大毛神社

大毛村といふ今古松岫社と稱し延喜社名
葉栗郡大毛神社本國帳より從三位大毛天神
といふ事あり其一本は、大毛といふは本國帳
集説より府志より姓氏録の大宅首の事と

河内郡大毛と大宅といふ所あり
とあり

生嶋天神社

本國帳に葉栗郡從三位生嶋天神といふ
とれど今廢して他知るといふ所あり
名あり多しといふ事あり流擧げて廢したる所
ありと生嶋といふ事ありたるといふ事あり
田嶋松林嶋といふ所ありとあり今廢したる
といふ事あり

魚入天神社

本國帳より葉栗郡從三位魚入天神とあり
たもとて度喜式の伊富利部神社本國帳の伊
福利天神とあり社の重むより外あり
るふふ今八度して考へしありしもの所素
河端村八叙社とありて本國帳の中治郡長
三位河保上天神とありし書しれども今さ
るふふ以上式帳國帳とのせしむ社あり

浅井神社

浅井村より今八叙宮とありて度喜神名
式の中治郡とのせ國帳の中治郡從三位
浅井天神とありて今八叙宮とありて中治郡の
社社の記とありし今をんご

小塞神社

小園村より今八叙社とありて度喜神名
式の中治郡とのせ國帳の中治郡從三位小
塞天神とありて今八叙宮とありて中治郡の
のふふ今をんご
其外或中治郡石
刀ノ神社とありて今八叙宮とありて中治郡の
神社とありて今八叙宮とありて中治郡の
たれど定らるる社ありて今八叙宮とありて中治郡の

天神社

内割田村あり

八剣社

卯割田村あり
三宮寺ミツノウついでに

神宮寺あり

大社あり

今考く

三宮寺あり

石宮社

石神社

二社田村あり

熊野権現社 白山社 神明社

三社黒田村あり

神明社 天神社

二社大色村あり

神明社 天神社 天王社

三社

愛宕社

西海道村あり

七社権現社 神明社 八幡社 天神社

伊社松竹村あり

神明社 八叙社 天神社

三社小見比也村あり

神明社 白山社 以上三社
同所

赤也村あり

愛宕社 神明社 熱田社 同所 熊野社

五社村久也村あり

白山社 神明社 山神社

三社赤也保村あり

白山社

後保村あり境内廣く森古く元和九年

載晚秋下八日造言の栂あり板古き海

よ色つきいれど其所の栂あり古く又寛

永十七年辰八月廿七日後保村白山社清に

くられらるんはあきく板ありて農人の

名前数人ともせりこと古きものなり

神明社 天王社 同所

三社同村あり

天道社 水神社 神明社 天王社 以上三社
同所

伊社草井村あり

諏訪明神社 八幡社 神明社

水神社 稻荷社

少社
御前

牛頭天王社

宮田村ありて惣氏神あり

八幡社所 春日社所 天王社

神明社 山神社

七社所 御前

熊野權現社

小入村ありて堀内居く櫻の大樹之百年茂

御前ありて古社ありて古社の小海なり其の
或社のうらまはしき今を考ふべし

八幡社

御前あり古社ありて古社ありて古社の小海なり其の

権現ありて小入村八幡大社の御前ありて古社ありて古社の

二海ありて古社ありて古社ありて古社の小海なり其の

うらまはしき今を考ふべし

御前ありて古社ありて古社ありて古社の小海なり其の

多し古社ありて古社ありて古社の小海なり其の

富士社

目村あり

天神社

隆野村あり

愛宕社 天神社

二社杉山村あり

神明社

河田村あり

三所権現社 天王社 神明社二

白山社 愛宕社

六法老河村あり

八劍社

田中村あり

神明社

岩根村あり

若宮社

小方村あり其いませる地名より今も泉

屋明神と稱す

大日社

小方村の平谷川の堤乃上ありり大日と
稱す」と述す以て此社建て大日社と改む

大日尊を祀社とてつゞくはいふも一とれど昔
陸國大洗磯前業師菩薩社とて或る之
又若狭金山田形に弥勒菩薩神社とて
例も多しといふも一とて此大日如来佛とて昔
より里人の尊ぶる由村に在りしとありし
はあきとる法に力量ありとて新報にりる
いづれも一法に如く一とてある年は市島松
寺村の御母の古く年比にけりぬは御母新築修成
河にありしより一とて幸修切とていふとて
飽たきとていふとては御母あまねていふは

大食とて河をりの能うありしといふは
これより一とて裏なる竹藪の中とて並つる
しやあまねていふとていふとて河にけり
よそ波竹藪とていふとて大なるとていふ
ありきとて二ありとて根ありしとて並系
こゑとて繩とていふとてけりとて又武時
小舟とていふとて橋とて平島川とていふ
一とて御母人來聘とていふとて起名とて
りしとては御母上下の御母とていふとて
市がありしとて舟とていふとてけり

権りも神室古き駒大獅子面古太刀短刀等
多し又境内に春日稲荷八剣天王の末社
あり神宮寺あり冬後雅経石のありいづや
いづら川にせしみをきくもゆきしはひき
の神をよしといふとこれ古社なりしものゆ
ろくむしりの玉の弁は流るゝ社の東北方十二
間ありあり妻しくハあのおろろの名あり
白塚といふも 軒即社なり
八剣社 稲荷社 念願軒社 成徳
田村ありあり

神明社 辨天社 天神社_ニ ウブスナノ社

八五社 里小牧村あり

八剣社

更屋敷村あり

八幡社 若宮社 貴船社 ニヤグニテ社

八幡門は村あり

八幡社

高田村あり

天神社 神明社

大乞村あり

八幡社 山神社 藤宮社

天之神依り多村あり

天神社 八幡社 神明社

富徳村あり

八幡社

波村あり

八幡社

松葉村あり

八幡社

大里村あり

神明社 愛宕社 齋宮社 天王社

河村小園村あり

岩神社

尾石村あり

神明社^三 天王社

河村西後井村あり

塩竈社 神明社^二 天神社

河村玉後井村あり

八劍社 神明社

河村河野村あり

寺院

天台宗

光明寺

光徳寺村ありて遍照山と号し野田村
蜜藏院の末寺也

天武天皇の白鳳六年の建之て塙震抄
飛鳥浄法原御宇己小乙中華粟臣人麻
呂始て建之てはぐりの尼寺と名づけし
記したる古刹ありし中古度絶し其後
再建せし寺あり境内に白山社天満宮社

あり寺宝之府志

東照神君禁制狀一通天正三年三月廿
二日所賜也有神筆花押今藏于寺と云々
三寶寺

卯剎田村ありて八剎山と号し野田村蜜
藏院の末寺也智證大師執田の八剎宮と
記し得し其剎のる像を刻て安置する
山号とせしは佛より中びり火災に
かゝると正保年中再建する徇行記に三寶
寺宝物不動画像智證大師筆也と云々あり

真言宗

遍照院

島村よりていしつ紀州なる妙山西方院の
寺ありしが宝曆十二年名古を七ツ寺に
末寺より若栗神社宇丈須奈神社の
宮寺より中絶より長十年急松
修理亮正吉再建と

甘露寺

大野村よりて八幡山より名古を大須
直福寺の末寺よりと放生軒とありと

近年今の山号寺号と

淡路守子田千代丸丸道日秋之末寺より
末寺より名古を大須直福寺の末寺より
放生軒とありと
大野村よりて八幡山より名古を大須
直福寺の末寺よりと放生軒とありと
近年今の山号寺号と

禪宗臨濟派

妙光寺

信州村ありて萬松山と号し京都妙心寺の末寺也古き寄進ありて寄進妙光寺事合葉栗郡内野村篠野四至限東鎮守天神右寺領同位牌田等奉寄進當寺也若子々孫々之中致違乱煩者可為不孝之義也固可守此旨依寄進狀如件永和戊午四年九月十日橋康武と号する塔頭一字ありて德壽院と号す

劍光寺

馬田村ありて大徳山と号し京都妙心寺の末寺也建久元年十月頼朝將軍上洛の時寺に小法師地元の徳と号す寺を名高階也と号す一振と奉納ありて劍光寺と名づくる寺記ありてその地元の長路ありてより人盜み去りて今一宮の地元の長路あり又寺の廢絶ありて永祿三年甲午以安和尚再建して天正十九年以後の古證を多くとす

寶光寺

田村とあり瑞林山とありして寺跡あり此末
寺の跡とあり

現藏院

田村とありて白華山と号し田村宝光寺の
末寺なり

文永寺

小松村とありて法隣山と号し小松村妙光
寺の末寺なり鐘樓ありて山名を符號潭
寺の古蹟とありて中興梵蹟とせし

寺傳

東林寺

田村とありて瑞應山と号し小松村妙光寺
の末寺なり同社の年月未詳と記し中興同山

壽岳和尚ハ永正二年三月遷化す

常福寺

文屋交村とありて松林山と号し小松村
妙光寺の末寺なり

瑞光寺

田村とありて薬王山と号し小松村妙光

寺の末をり

高德寺

山方村あり瑞穂山とついで王田村宝光寺

の末をり此方亮書と佛玉山とあり阿比陀の御

像と弘法大師の像とついで法

より慶安三寅三月より寺縁起

より

西蓮寺

山方村あり妙心山とついで隆聖村妙光寺

の末をり同刻の年月知れず中興園山

天岫わると天文十二癸卯年寂と

高照寺

山方村あり佛白山とついで京初妙心寺

の末をり

大乘寺

大毛村あり高岳山とついで名古堂大徳寺

の末をり美濃の山を聖れ瑞穂寺の

末寺なりツケ安永三年今の末をり

ついで二ヶ寺ハ府志より

同宗黄蘗派

壽福寺

小園村より急雲山よりして山城宇治の萬福寺の末より

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

浄土宗

曼陀四羅寺

常陸保村より日輪山よりして西山派京都禅林寺光明寺の末より

後醍醐天皇の元徳元年天真乘運上人此院に依て建立して河内院并二寺の像とありて法渡園の道場と稱せし上六花山院の裔源より上野國善導寺光融和尚より浄土の傳を授けしより康永二年六月十七日示寂して袋中なるの撰ひし

浄土血脈通し兼運六尾曼陀羅寺

今の山号寺号は以心院凡

後奈良院の天文十年三月廿五日勅願の論

首と下官寺と列しやと云く本朝

六檀林の一所田舎の本寺と稱し此系表を

本堂

河内陀親善執至の三像と安堂より高力権信

が著したる曼陀羅寺迎講會式圖記と天真上人

の著したる曼陀羅寺迎講會式圖記と天真上人

の著したる曼陀羅寺迎講會式圖記と天真上人

曼陀羅四維堂

本堂の御あり日迎講會式圖記

後花園院中宇宮正三年六月十一日高山中七世

の住持室光和也其夢の告ふりて晨時の法事と云りけり小

和の方より年危小厄僧一人一軸と云ありて是より浄土に

曼陀羅を成り上人の信りと感して佛を成りて是より一

軸と云ありて是より曼陀羅の社内に入りて是より一

軸と云ありて是より曼陀羅の社内に入りて是より一

軸と云ありて是より曼陀羅の社内に入りて是より一

軸と云ありて是より曼陀羅の社内に入りて是より一

軸と云ありて是より曼陀羅の社内に入りて是より一

八幡社

方丈の首尾の方あり炬籠あり是より八幡宮と

らせて新多のうら... 彼が教の決り... 神のまじり...
出で 今もわらう... 古のあま... 神のまじり...
日し何神あり... 各地の相多... ありの合... 弘法西...
とく... 宮... ち... のら... せ... ね... の世...
神や... 心... 院... 和... 寺... 世...
りてわ... とく... 又... 寺... 縁... 著...
始荷... あり

寺寶

府志... 縁起一卷 兼亞相源敬公所著述而今
藏于宝庫 東坡芭蕉画一幅 沈同賛按画様
非蕪長公筆法恐是明画 西湖圖一幅 按画様似朝鮮人
所圖非西湖 畫傳來誤之 三屏 翠花鳥三幅 牧溪繪三幅
とく... 寺... 古... 文... 十... あり

寺領

文祿四年乙未土月初日豊臣秀吉公寺産寄
附の沙糸印あり... 源紋公元和六年庚申
九月朔日... 前飛保村... 百三十一石
の沙糸印を下したまひぬ

東陽院 心改院 蓮法院
心法院 東林院

西蓮寺

玉田村よりあり東池山よりいへ美濃の竹ヶ鼻村

揚松菴の末寺也

小松寺

大乞村より西照山よりいへ前飛保村曼又茶

羅寺の末寺なり... 阿弥陀の像... 弘教大師

の像... 弘教大師

音楽寺

村久野村よりあり... 前飛保村曼又陀... 此寺の末

寺より 府志より

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

浄土真宗東派

運善寺

大見比叟村よりて京都東本願寺の直末より

いし、天竺宗よりて岡山祐信府志入親

變鳥上人の弟子となりて浄土真宗と改む徳助の

七門徒乃一所なりて張州名勝志よりせり

祐信の縁今に堂中より

膳寶寺

河内村よりて冬河の依く小村土官寺の末

寺なり

上宮寺

新花保村よりて系部本山止業よりて
太子堂よりして天台宗よりして文應九年
宮田集出よりして心宗よりして親王上人
よりして中子よりして法雲を改て浄土宗
の一寺なり

養願寺

里小牧村よりして京都本山の直末寺より大
永四甲申年沼福受の創建より

深妙寺

(真宗東派)

新花保村よりして里部本山止業の末寺也

頓受寺

小園村よりして里部本山止業の直末寺
なり

善徳寺

田村よりして冬河内針清村膳鬘受寺此
末寺なり

来徳寺

河田村よりして系部本山の直末寺なり
禮徳寺よりして今此寺なりなり

阿弥陀乃画 係此 表書下 下総國
換首根鞍恩寺 門迄尾州葉栗郡大野
願主釋善了 本願寺釋實如 西しんえ
しんえり

妙性坊

山分村ありて 系部北山の直末より

宝行寺

日村ありて 妙性坊より

定力寺

尾田村ありて 系部北山の直末より

祭泉寺

大色村ありて 系部北山の直末より

以覺寺

門分村ありて 系部北山の直末より

尾州葉栗郡上門真莊八幡村福光坊

しんえり

聞法寺

山分村ありて 系部北山の直末より

末寺より

念敬寺

玉井村よりして名徳の園蔵寺村西徳寺
の末寺より玉井山より号して天文三甲辰年西
慶の中身也堀内より古石解ありて北林宗
泉禪定尼永正六己巳四月十九日と云々あり
為人の墓今洋るふびふ由寺の住僧に玉
井四郎助重の裔孫ありていほくまは

寶光寺

高田村よりして名古を傳授寺の下也此寺

唐志よりしる

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

日蓮宗

法蓮寺

馬田村ありて妙王山と号し甲斐の身延山
久遠寺の末寺也明應九壬子年僧日妙の創
建なり

寺寶

曼陀羅一幅僧日朝の修造なり又日蓮上人の書豊臣秀頼公の和歌二首あり

直通寺

日村あり岸長山といひて馬村法蓮寺の
末寺なり

古戰場

黒田合戦

南方紀傳に南朝元中五年戊辰北朝嘉吉二年
八月島田伊能重満貞兄の土波康行が代官
として起りて見康行とありてみづ
くも思ふたむとらむとありてをうらむと
めらりて坂東の宮内女輔詮直ハ康行が解
つるありて詮直詮直のひとと義満
將軍と海軍と事と門せば康行詮直一味
満貞とありて合戦とありてをうらむとありて

四飛申し事成りしに其所を詮述功
せし満貞尾張の守護をたすは
満貞尾張より志する詮直つて
満貞金銭より人敷をつし
満貞と討んとし將軍いしと因りて
土岐左京守相益々命を虚けし
伊能守打負て逃たりし常
樂記より嘉永二年五月九日土岐左馬助於
尾州黒田合戦場討死する正徹慰草に黒

田の地を死のいし以て堂明德の以て戦場より
かたしちくるりし記しみるは
合戦の事なり

古墳

河田カウタの四塚ヨシバカ

河田村より西に室永三丙戌年十月一ツの墓あり
むけて石柩ありて一ツが長九丈一ツが横六丈一ツあり
あり中々に波瀾磁器の類あり一ツがみづら鷹柄あり
たり是葉栗の臣人齋宮の墳墓と云ふも氏
族貴女の塚と云ふも一ツは府志に云ふスハラ塚
カヲト冢と云ふも古塚十七八所あり

壽福寺山の古塚

小園村より西に田の字塚と云ふも古塚あり

小塞弓張等墳墓と云ふもあふん

古塚

大野村の東山の方農人の古塚の例と云ふも高
一間餘是草と云ふも古塚の上と云ふも石伴と
云ふも河柳翁神道碑と云ふも一奉鼎の撰
ひる文と彫りあり大野氏の人の此傳と云
長く云ふも一奉事實と云ふも一奉事
古塚のくま大野氏の石伴と云ふも一奉
ささるる

城跡

光明寺古城

光明寺村あり神戸河原を以て信長が
はしりて丹山田半若尾居原一今氏家の東北
にあり。

黒田城

黒田村より其の東西南北六十
之間あり一重湫西二重湫南より三重湫
の河あり今ハナ田よりそのわ田の
築きよりの井は尾の尉居原のり一柳

監物の居城なり。藩梅澤と天正八年相

摸の小條にあり一柳市助直末山中の城

乃先づけりて河原より関白のよせりて

浪よりし舎舟直盛とてその跡をつがせ

竹物よりあり尾張國黒田の城なり

石^二石^一長五年の秋

徳川殿伊豫國神戸の城とゆふなり

そは存産地よりあり以井わ田のりハ人物れ

ありとあり

割田古城

多利田村あり園二所園用がまき
ありあり里老しほり

東部流石のりたはるる
藤江殿分御園藤江殿のりたはるる
藤江殿分御園藤江殿のりたはるる
藤江殿分御園藤江殿のりたはるる
藤江殿分御園藤江殿のりたはるる
藤江殿分御園藤江殿のりたはるる
藤江殿分御園藤江殿のりたはるる
藤江殿分御園藤江殿のりたはるる
藤江殿分御園藤江殿のりたはるる
藤江殿分御園藤江殿のりたはるる

宅趾

兼松氏、屋敷跡

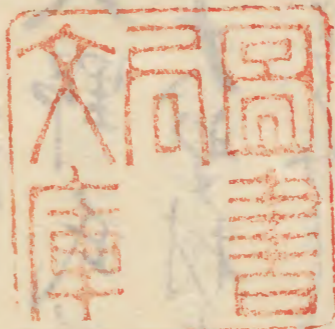
島村あり妻一人地の家ふまき

大野氏、宅跡

大野村あり大野氏の家ふまき

大野氏の家ふまき





小田切傳之丞忠近謹圖
杉本愛七良承謹書

物

